文武両道

～全国の舞台で活躍～

男子5位、女子7位（過去最高）インターハイを終えて

山岳部　主将　黒沢（くろさわ）理央（りお）



インターハイ優勝を本気で目指して活動してきた日々は、とにかく充実していました。朝昼は部室で天気図を描き、放課後は設営練習と徹底的な体力づくり。帰宅後も概念図を作成し、夜遅くまで地図を読み込むなど、それぞれに必要な力や技術を身につけていく毎日でした。

兵庫県（氷ノ山・鉢伏山・蘇武岳）で行われた今年度のインターハイ。県外の山への期待を膨らませたのも束の間、想像以上の暑さや鉢伏山での強い日差しに体力を奪われ、絶景を前にしても不安が募るばかりでした。迎えた本番。初日の設営審査でトラブルがありましたが、冷静に対処し、2日目も余裕を持って通過できました。しかし、鉢伏山で行動の変更やコース短縮、蘇武岳への山行の中止が決定。全力を出し切りたい気持ちを残したまま、最後の大会は幕を閉じました。

結果、男子は5位入賞、女子は過去最高順位の7位。悔しさと応援してくださった方々への申し訳なさで涙が込み上げ、直後のやるせなさは1ヵ月以上経った今でも思い返します。しかし、無念は自分たちでは晴らせません。残された時間でやるべきことは、後輩たちが同じ失敗をしないよう、培った技術と知識を継承することだと強く感じています。

山岳部で仲間と共に積み重ねてきた経験や努力は、これから先の未来へと続く道を歩ききるための装備や体力のようなものだと信じています。私たちの人生という縦走は、ここからが本番です。支えてくださったすべての方々への感謝を心のザックに詰め込んで、これからも力強く前を向いて歩んでいきます。

全県優勝男子団体 13年ぶりの頂点

柔道部　主将　杉山（すぎやま）勇人（はやと）



先輩達が引退し新チームになってから県総体まで、秋田工業高校、能代高校には連敗を喫していました。4月の横手市での大会では3位に入ることもできず、5月の中央支部総体では秋田工業高校に1対3と、全県優勝には長い距離がありました。そこから約1ヶ月、死に物狂いで練習し、迎えた県総体。準決勝で秋田工業高校、決勝で能代高校という厳しい組み合わせでしたが、それぞれの役割をきっちりと果たすことができ、両校とも破り、13年ぶりに秋田県の頂点に立つことができました。

全県総体から2週間後の東北大会では団体戦で第5位と、小兵軍団ながら健闘しました。約1ヶ月半後の和歌山インターハイに向けて、朝のグラウンドでのランドレ、放課後の柔道とウェイトトレーニング、夏休みの2部練など、厳しい練習を乗り越えてチームの結束力をより強め、非常に良い形でインターハイに向かいました。

インターハイ会場には全国の猛者たちが集まり、団体戦のインターハイは初めてだったのでとても緊張しました。福井県代表の福井工大福井高校と対戦しました。相手は全員僕たちよりも大きく、僕の相手はモンゴル人で名前も顔も身体も厳つく、この僕でさえ少しビビりましたが、それよりもっと厳つくおっかない先生にいつも指導を受けているため大丈夫でした。

一人ひとりが全力を出して戦いましたが、結果としては1対4で初戦で敗れてしまいました。しかし、インターハイに出場するまでの過程、秋田県代表としてインターハイに出場できたことの誇りは、かけがえのないものです。ここまで来ることができたのはここまで諦めず、ともに頑張ってきた仲間、柔道や生活面も指導して下さる監督やコーチ、様々な面で力を貸していただいた部長、練習で胸を貸していただいた秋大生、1番近くで支えて下さった保護者、後輩を信じて応援してくださ